

青 防 号 外  
令和 7 年 8 月 8 日

報 道 機 関 各 位

青森県危機管理局防災危機管理課長  
( 公 印 省 略 )

2025 年度あおもり酷暑期避難所演習の開催について

県ではこのたび、国立大学法人弘前大学及び一般社団法人避難所・避難生活学会との共催により、酷暑期の避難所体験を通じて良好な避難所環境の整備につなげていただくため、市町村職員等を対象とした標記演習を開催することとしましたのでお知らせします。

記

1 日 程

令和 7 年 8 月 1 8 日 ( 月 ) 12:00～ 1 9 日 ( 火 ) 12:00

2 場 所

弘前大学文京キャンパス 第一体育館、オープンイノベーションプラザ  
(弘前市文京町 1 )

3 その他

詳細内容は別添開催要項のとおり

| 報道機関用提供資料  |                                          |
|------------|------------------------------------------|
| 担当課<br>担当者 | 危機管理局防災危機管理課<br>危機管理対策グループ<br>総括主幹 山口 哲史 |
| 電話番号       | 直通 0 1 7 - 7 3 4 - 9 0 8 8<br>内線 4 1 2 0 |
| 報道監        | 危機管理局次長 佐藤 広之                            |

# 2025 年度 あおもり酷暑期避難所演習 開催要項

## 1. 開催趣旨

近年、地球温暖化に伴う環境の変化や戦争や人為的な災害など予想を超える甚大な災害が発生しています。自然災害だけでなく、原子力災害など広範にわたる災害への対応に備え、準備をしておくことが被害を最小限にし、住民の安全を担保することに寄与します。弘前大学では、令和 6 年度から複合災害看護教育プログラムを設置し、災害に強い医療人材の輩出を行っています。特に酷暑期や厳冬期など、劣悪な環境での災害関連死を予防するためには環境を整えることが非常に重要です。限られた備蓄をどのように活用し、人々の安全を守るのか当事者が体験し、今後の自身の活動に活かす知見を修得することが求められています。

## 2. 目的

自治体職員および青森県内の大学生が、酷暑期の避難所に関する演習や研究活動を通して、災害関連死を予防する知識や技術を身に着けるとともに、快適な避難所とするための備蓄管理や避難所運営のための方策について検討することを目的とします。

## 3. 日時

2025 年 8 月 18（月）～19 日（火）2 日間

## 4. 場所

弘前大学 文京キャンパス 第一体育館、オープンイノベーションプラザ  
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地 （別紙地図参照）

## 5. 対象者 30 名程度

青森県内の自治体防災担当および関係者の皆様  
弘前大学および弘前市内の大学生

## 6. 参加費および持参品

<参加費> 無料

<持参品> 自治体や個人の災害備蓄を持参し、効果等を確認ください。

期限切れ間近のものやその他、多めに持参可能な備蓄があれば、お持ちください。

各自治体の備蓄：段ボールベッドまたは折りたたみベッド、非常食（ $\alpha$ 化米、缶詰など）、  
トイレ（ラップポン、携帯トイレ）、扇風機、冷却物品、飲料水、生活用水など

個人の装備品：筆記用具、着替え、上履き、飲料水（スポーツドリンク推奨）、箸、  
スプーン、フォークなど

※持参推奨：マット、冷却グッズ、タオル、体拭きボディシートなど

<その他> 本事業では団体保険の方加入します。

## 7. スケジュール

- 12:00 開会式 弘前大学 学長あいさつ
- 12:30 講義 「東北における熱中症対策」 中京大学 松本孝朗 教授  
「災害関連死を防ぐための方策」避難所避難生活学会 水谷嘉浩 代表理事  
「避難所で必要となる『生活用水』のスフィア基準に対する考察とシミュレーション」  
ユーティリティ・ソリューションズ 代表取締役 中根 圭介
- 15:00 演習 トイレ、段ボールベッドの設置
- 18:00 夕食 / シャワー体験
- 22:00 就寝 睡眠計測、睡眠環境測定：温度、湿度、照明、生活音など
- 6:00 起床
- 7:00 朝食
- 9:00 演習 「酷暑期避難所における健康被害を防ぐための課題抽出と対策の検討」
- 11:00 アンケート
- 11:30 閉会式

### ※その他 研究について

演習では、酷暑期避難所の運営や環境改善のため、以下の研究活動を行います。  
演習の際に詳細を説明し、同意を得られた方にご協力をいただきたいと思います。

研究① 酷暑期の避難所における環境が心身に与える影響

研究② 酷暑期避難所演習に参加した自治体職員の経験および避難所改善に  
つながる要因の検討



写真 睡眠の測定機器

## 8. 公表・メディア

演習の成果を広く防災関係者や住民の皆様へ周知するため、個人情報に十分配慮したうえで、学会発表や論文、そして、新聞、テレビ等すべてのメディアに公開・公表します。

## 9. 安全策について

### 1)酷暑への対応

- ・本演習は、イベント保険に加入しています。
- ・脱水症や熱中症予防のため、冷房を完備した救護室、スポーツドリンク、冷却グッズ等を準備します。
- ・演習中は医療者が常駐し、参加者の身体的状態を観察します。熱中症などの症状・疑いがある場合は、すぐに演習参加を中止し、医療機関を受診できる体制としています。

### 2)防犯への対応

- ・貴重品は自己管理とします。
- ・宿泊する避難所の区分けは、参加者の安全に配慮し、意向を確認して調整します。

## 10. 実施体制

主催：弘前大学、青森県、避難所避難生活学会

## 11. 申し込みおよび問い合わせ先

参加者は各個人で、QRコードまたはURLからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/6r3BXPrhgF> 期限：2025年8月1日 17:30

申し込みフォーム  
お一人ずつで申込ください

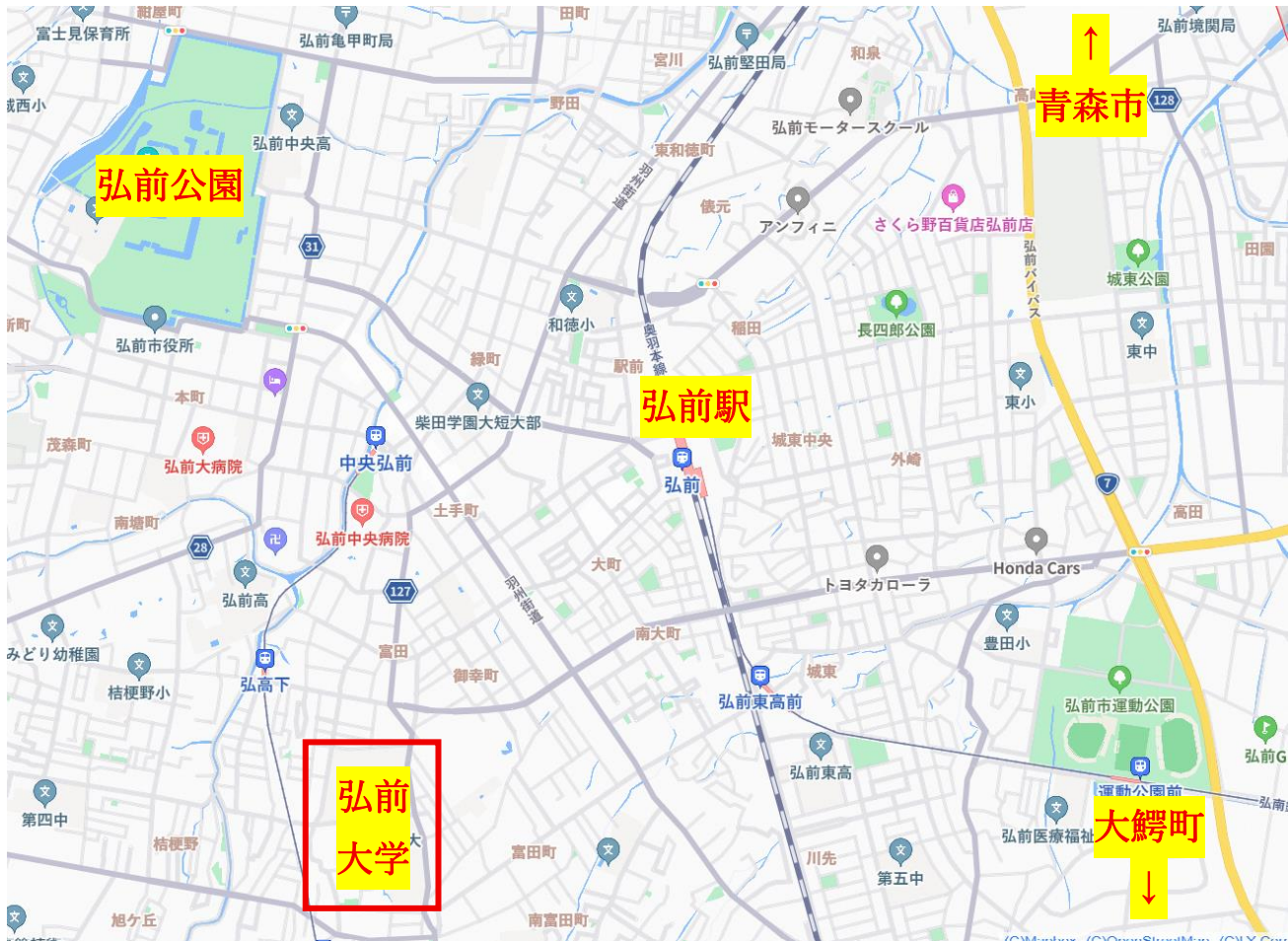


## 問い合わせ先

弘前大学大学院保健学研究科 因直也

TEL : 0172-39-5951 E-Mail : [in1105@hirosaki-u.ac.jp](mailto:in1105@hirosaki-u.ac.jp)

<弘前市>



<弘前大学文京キャンパス>

